

# 宇都宮をもっと元気に

## 宇都宮市長 佐藤 栄一

(さとう えいいち)

### Profile

2004年11月28日から宇都宮市長(2期目)。1961年10月5日生まれ。明治大学法学部法律学科卒業。北関東観光開発株の取締役・代表取締役、(社)宇都宮青年会議所理事長、宇都宮商工会議所青年部会長、(社)日本青年会議所副会頭、宇都宮市立横川西小学校PTA会長、宇都宮市都心部活性化推進協議会委員などを歴任。



### 新春 対談



※文中敬称を略させていただきます。

## サイクルスポーツマネージメント(株)代表取締役 砂川 幹男

(すなかわ みさお)

### Profile

1947年宇都宮市生まれ。拓殖大学商学部貿易学科卒業。2008年に宇都宮市役所を定年退職と同時に、地元出身のプロロードレーサー・廣瀬佳正選手と共に地域に密着したプロロードレースチーム「宇都宮ブリッセン」設立の準備を始め、同年運営会社「サイクルスポーツマネージメント(株)」を設立、取締役に就任。2008年10月から現職。



は全国1位の評価。子育てにやさしい街は第2位。いいものが沢山ある。まずは知ってもらおう。次に発信してもらおう。知名度が上がることで、住んでみたい、行ってみたい、企業も進出してもらいたい、そういう街にしていきたいですね。

■いいものがいっぱいあるけど謙遜する。ブリッセンのように、ここが一番だよという人が一人でも増えてくれれば……ですね。

**市長** それがブランド戦略。「杜の都仙台」「北の大地北海道」というようなインパクトのあるキャッチフレーズとして「住めば愉快だうつのみや」。もちろん、餃子もカクテルもジャズも自転車も……いろいろあります。5年前に東京・大阪でおこなった団塊の世代へのアンケート調査で、退職後移り住みたいと思う人は、自然があつて、あまり田舎ではなく、車を使わなくても便利で住みやすい所を移住先の条件にしています。それが宇都宮と長野。だから、早く公共交通を構築して、車なしでも移動ができる社会を作りたいのです。車の排出するCO2も少なく、渋滞も解消、時間が短縮でき

■ジャパンカップサイクルロードレース・クリテリウムがもたらしたものは？

砂川 ジャパンカップはアジア最高峰のワールドレース。もともとロードレース自体は、交通規制がしやすいあまり人のいない所で行われてきた競技です。街中で3万人の観衆とビルの中を疾走するクリテリウムは、宇都宮ブリッセンだけではなく、他のロードレーサーやチームから圧倒的によかったです。宇都宮市にお礼を言っていたと言われました。

**市長** 就任した7年前は、ジャパンカップを止めたらの声も。伝統や歴史は時間をかけてコツコツ積み上げていくもので、ジャパンカップも宇都宮市の宝物に育てていくべきと思ひ継続を選びました。まずは、市民の皆さんに知ってもらい、認めてもらうために、全国初の中心市街地での周回レース・クリテリウムを実施しました。雨にもかかわらず昨年同様3万人が訪れ、ジャパンカップを含めると10万人以上。その経済的効果は、約20億円。名実共に宇都宮の財産になり、これから宇都宮のブランド戦略のひとつとしてもっと大きく育てていきたい

■「もっと元気に」の、プラスのバイラルがすでに始まっているのでは？

**市長** 財政面、精神面とも基礎固めはできたと思います。あらゆる部門で、日本一の読書量、各各校への栄養士配置等79の日本一の資産、産学校への栄養士配置も来年から始まります。後は、会社というところからさらに売上増のための設備投資。それが、ネットワーク型コンパクトシティ。宇都宮の身の丈の中で十分にできる施策で、もしこれが完成すれば、ヨーロッパあるいは日本の大都市でしかできないものができようようになるのです。さらに宇都宮が目指す公共交通は、家から一歩も出て行けない人達のために、ドア・ドア。これからの超長寿の社会では理想的な街。それをスキーム(仕組み)がある計画を持って短期間でやってしまおう。

生活習慣病を防ぐことも長寿化、高齢化社会を迎える必須条件です。健康寿命を延ばして長生きしてもらうには、大きな筋肉を鍛えないと、血糖値も下がらず、心臓も強くなり、大きな筋肉は下半身に多いので、自転車とか歩くとか、公共交通で移動するとか、足腰を鍛えてもらいたい。

砂川 ハムストリングというのですが、背中から後ろの大きな筋肉を自転車は沢山使いますので、筋肉の衰えを予防し心拍数を適度に上げます。宇都宮市と連携しながら65歳以上を対象に「いきいき健康自転車講座」をやっています。元気な高齢者であれば病気をせず、医療費の削減にもなりますね。

**市長** 運動、しっかりと正しい食事、そして、人に会って、話したり笑ったり、そういうことが健康寿命を延ばす秘訣らしいですよ。そういう社会を作っていかなければい

るから経済効果も上がる。そうなれば、もっともっとブランドメッセージを使つて、一人ひとりの市民の皆さんがセールスマンのごとく宇都宮をPRしてくれるはず。

砂川 チーム名に宇都宮を入れて、北海道から沖縄まで遠征している。知名度アップに少なからず貢献しているかなと思います。地域名を入れてるのは唯一つ。他は全て企業チームです。増田、中村選手のように強い選手が、家族と一緒に県外から移り住んでいますが、「住みやすい」と言っています。

■「もっと元気に」の、プラスのバイラルがすでに始まっているのでは？

**市長** 財政面、精神面とも基礎固めはできたと思います。あらゆる部門で、日本一の読書量、各各校への栄養士配置等79の日本一の資産、産学校への栄養士配置も来年から始まります。後は、会社というところからさらに売上増のための設備投資。それが、ネットワーク型コンパクトシティ。宇都宮の身の丈の中で十分にできる施策で、もしこれが完成すれば、ヨーロッパあるいは日本の大都市でしかできないものができようようになるのです。さらに宇都宮が目指す公共交通は、家から一歩も出て行けない人達のために、ドア・ドア。これからの超長寿の社会では理想的な街。それをスキーム(仕組み)がある計画を持って短期間でやってしまおう。

■「自転車のまち宇都宮」を推進していますがどのようなプランですか？

**市長** J・R宇都宮駅西口にサイクルステーションを作りましたが、さらに、昨年10月には、地区市民センターの他、観光施設やコンビニエンスストアと連携して休憩や自転車の簡単な修理ができる「自転車の駅」を16箇所設置しました。今後も民間企業の皆様にもご協力いただきながら増やしていきたいと考えています。

■市民協働の市民とは、宇都宮市民・NPO・ボランティア・企業を意味し、全てのセクターが揃って街づくりをすること。誰もが乗れる自転車は、そのツール、手段のひとつでもあります。自転車と公共交通と車が共存できる、超高齢社会を見据えた新しい街のあり方「ネットワークコンパクトシティ」を目指しています。市内各地に、ジャンボタクシー等の地域内交通を作り、高齢者・障がいのある方、免許の取得ができない子ども達の利便性を図り、車の運転ができなくても生活ができるようにします。そして、それぞれのコンパクトな街を、バス路線やLRT、連節バス、J・Rや東武鉄道と結節することで、東京のように移動に便利な夢の街を実現できます。自転車と二輪に乗れるLRTがあれば、車がなくても行動範囲が広がります。そんな街を急ピッチで作りたいです。

■地域密着型のチームとしては、少しでも地元で還元したいとかねがね考えていました。官民一体となって取り組んだウエルカムクリテリウムでは、オリオン通り商店街さん等と連携した様々なイベントが行われ、結構評判が良かったですね。ブリッセン・ユー・シニアも、200万円ほどグッズが売れました。来てくれたお客さんを楽しませ賑わいに少しは役に立てたかなと思っ



■新年にあたり、今年は何様な目標を？

**市長** 去年は、株価の低迷、円高、ギリシャ不安、特に震災の影響で、宇都宮ひいては日本全体の元気がなかった。元気を取り戻して、しっかりと安定した国や街づくりをしていくためには行政・市民の皆さん、企業、皆さん・NPOの方々、全ての力を総結集していかないと。宇都宮の目指す街づくりを実現していくも、そうした皆さんの力が必要です。市民の皆さんの2倍も3倍も汗を流して職員一丸となって仕事をしたいですが、市民の皆さんもぜひご参加して下さい。トップダウンではなく、皆さんの思いや夢、現状をどんどんぶつけてもらって、私達がそれを実現していくというボトムアップの街づくりを推し進めていけば、宇都宮は必ず全国でも屈指の街になるでしょう。全国一の街を目指していきたいと思っています。ぜひ一緒に、夢の実現に向けて、市民の皆さんの力をいただきたいと思っています。

砂川 当面は、Jプロチームの主戦場で、日本の1位を目指します。将来は、宇都宮から世界に出ていくグローバルチームになりたいと思っています。宇都宮ブリッセンという名前で、ワールドクラス、ジロ・イタリア等で、世界のトップレーサーと互角に戦うチームに育てていきたいと思っています。選手もそういうつもりでやっています。日本人の身体能力の中で、持久系は世界に十分通用するので、あながちできないことではないのです。また、「自転車のまち宇都宮」ということで、自転車の持っている機能を、行政の施策の中で展開していただきたいので、連携しながら、チームとして、できることから協力させていただければと思っています。

■いろいろなランキングがあつて、特に印象面とか知名度とかの点では上位に入ってきています。「いやいや転動、泣く泣く異動」と言われるように、県外から来た支店長さん達は「受け入れ姿勢がとってもやさしい。たぶん日本。人も親切、環境もいい。住みやすい」と評価しています。ただ、積極性というか自分の街を自慢するのが苦手。そこで、ブランドメッセージを使って、どんどん自慢してもらいたい。3大プロスポーツの活躍、クリテリウムやジャパンカップというアジア最高峰のレース。また、財政力健全度調査、住みよさ、発展可能な都市等

■いろいろなランキングがあつて、特に印象面とか知名度とかの点では上位に入ってきています。「いやいや転動、泣く泣く異動」と言われるように、県外から来た支店長さん達は「受け入れ姿勢がとってもやさしい。たぶん日本。人も親切、環境もいい。住みやすい」と評価しています。ただ、積極性というか自分の街を自慢するのが苦手。そこで、ブランドメッセージを使って、どんどん自慢してもらいたい。3大プロスポーツの活躍、クリテリウムやジャパンカップというアジア最高峰のレース。また、財政力健全度調査、住みよさ、発展可能な都市等

